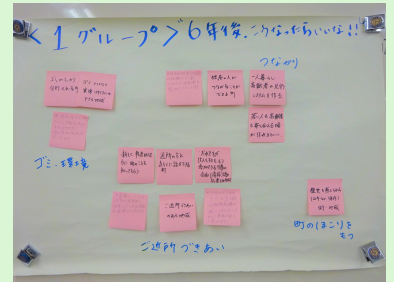


》》 第2回城東北部 報告書

まちづくり
話し合い
ひろば2023. 7. 19
総合区民センター
13:30~15:30

参加者17名



「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。

あつまる！ つながる！ やってみる！



地域福祉活動計画策定委員 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 岡田哲郎 講師



2回目なので交流自体を楽しんでいらっしゃる様子があった。私も2回目なので何もしていなかったが心地よさがあった。存在を認めるということだと思います。

「限りある時間の使い方」という本をご存知でしょうか。人生は4,000週間しかないという本で、その限られた時間の中で、意義ある時間だと思ってみなさんはここに集まっているが、効率重視できりきり舞いで生活している方もいる。ということを見ると、息をするように関われる地域とは何なのか。極端な話、明日人生が終わるとしても関わっていたいと思える地域とは何なのか。ヒントは今のこの場にあると思う。緩く、強制されない活動、つながりの場で、中心が大きくなく、常連であまり固まらない等の場だと思う。今日出た意見から身の丈の一步を踏み出していけば先につながっていくと思う。

第2回目のまちづくり話し合いひろばでは、地域の課題を振り返り、「6年後こうなったらいいなと思う地域の姿」と、それに対して、「自分でできること」のワークショップを行いました。

ワークショップ

6年後こうなったらいいな 目指す地域の姿 一部抜粋

- ・ゴミ出しがしっかりされ、ゴミが資源としてリサイクルされる地域
- ・誰でも気軽に寄り合える場がある地域
- ・近所づきあいで挨拶があり、助け合いのある地域
- ・障害者に親しみをもってもらえる障害理解が進んだ地域
- ・AI技術などを駆使して街ごと見守りシステムがある地域
- ・町会・自治会の若返りがある地域
- ・街の中に段差がなく、車いすでもシルバーカーでもスイスイ通れる地域
- ・災害に強い街づくりができていく地域
- ・外国の人との交流・つながりがある地域
- ・地域の新住人（新しいマンション等）との交流のある地域
- ・子育てしやすい（子どもがたくさんいる）地域
- ・ひきこもりの人を出さない、孤立させないで明るく声をかけ合う地域
- ・地域の高齢者が子どもの見守り、預かりなどを行っている地域
- ・飲食店（居酒屋含む）が困っている人の相談窓口になっている地域

自分・地域・団体で できること 一部抜粋

- ・おせっかいも大切にする
- ・話のきっかけづくりの工夫（植木を手入れしている方に声をかける等）
- ・まつり後の鉢洗いで楽しかったことなど意見を出してもらい、次回につなげている。継続していきたい。
- ・月に1回の清掃ボランティアを行っていた
- ・自分の専門分野や人脈を使って、まずは自分が相談窓口になる
- ・新しい地域コミュニティづくりのお手伝い
- ・自分の家の前など身近なところの清掃
- ・地域の住民の方への声かけ・挨拶
- ・地域の子どもや高齢者への記念品、誕生日プレゼント
- ・あいさつをする習慣
- ・地域の環境を良くするためには先ずご近所で活動や話し合いができる場所づくりをする
- ・助け合いの街になるためには街の中にいる障害者や困っている人に積極的に声をかけ、行事等への勧誘や情報提供をする
- ・商店会として若い世代へのシンプルで健康的な食生活の提案、また地域交流の場としてのイベントやお祭りの開催
- ・ゴミ拾い、片付けも協力を求めつつ行う
- ・自分が直接おこなう手助けと、周りの人に手助けの協力を求める声をあげる手助けもある。うまく周囲を巻き込むことも大切



日頃、地域活動をされていない方がみなさんのご意見（自分でできること）を見て、「このように活動すればいいのか」と、参考（指針）になったのではないのでしょうか。